

第 63 回経営協議会議事録

- I 日 時 平成 25 年 5 月 28 日 (火) 15 : 00~16:35
- II 会 場 筑波大学東京キャンパス文京校舎「3 階 337 会議室」及びサテライト会場：筑波キャンパス本部棟 8 階「特別会議室」(茨城県つくば市天王台 1-1-1)
- III 出席者〔学外委員〕
乾正人、河田悌一、岸輝雄、小林誠、佐藤禎一、竹中登一、吉田和正
〔学内委員〕
永田恭介、阿江通良、三明康郎、清水一彦、東照雄、大田友一、五十嵐徹也、石隈利紀
〔オブザーバー〕
池田学長補佐室長
坪井大学執行役員 (人文社会系長)、猿渡大学執行役員 (ビジネスサイエンス系長)、
金谷大学執行役員 (数理物質系長)、高木大学執行役員 (システム情報系長)、
宮本大学執行役員 (人間系長)、中川大学執行役員 (体育系長)、
玉川大学執行役員 (芸術系長)、松本大学執行役員 (図書館情報メディア系長)
横町財務部長、松崎施設部長、田中病院総務部長

IV 議 題

〔学長所信表明〕 ----- 〔席上配付資料〕

〔審 議〕

- (1) 平成 26 年度施設整備費概算要求事項 (案) について ----- 〔審議 1 資料〕
(2) 「附属病院再開発に係る施設整備等事業」における施設整備業務の変更について ----- 〔審議 2 資料〕

〔報 告〕

- (1) 平成 23 事業年度決算における剰余金の翌事業年度への繰越しに係る承認について ----- 〔報告 1 資料〕
(2) 平成 26 年度教育組織の編制等について ----- 〔報告 2 資料〕
(3) 平成 25 年度学群及び大学院入学試験実施結果について ----- 〔報告 3 資料〕
(4) 平成 24 年度卒業者・修了者の進路状況について ----- 〔報告 4 資料〕
(5) 筑波大学学生支援等プロフィール (暫定版) について ----- 〔報告 5 資料〕
(6) 第 107 回及び第 108 回教育研究評議会報告 ----- 〔報告 6 資料〕

〔その他〕

V 議 事

〔学長所信表明〕

審議事項に先立ち、学長から、席上配付資料に基づき、平成 25 年度の所信表明について説明があった。

〔審 議〕

- 1 平成 26 年度施設整備費概算要求事項 (案) について
松崎施設部長から、審議 1 資料に基づき、平成 26 年度施設整備費概算要求事項 (案) について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。
- 2 「附属病院再開発に係る施設整備等事業」における施設整備業務の変更について
五十嵐副学長・理事、松崎施設部長及び田中病院総務部長から、審議 2 資料に基づき、「附属病院再開発に係る施設整備等事業」における施設整備業務の変更について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

各委員からの主な発言等は、以下のとおり（以下、○は委員の発言、△は本学側の回答）。

- 新々棟の建築整備費には、消費税率の改定に伴う経費増額分は含まなくていいのか。
- △ 現在、中医協において医療機関等における消費税の負担の在り方が検討されている。検討結果が今のところ不透明であるため、シミュレーションには入れていない。
- ベット数はどの様な内訳になるのか。
- △ トータルで 800 床である。内訳は、けやき棟（新棟）が 611 床、既存棟が 189 床である。この 189 床分を新々棟として改築することとしている。
- 償還計画は理解したが、国の医療費削減政策に伴う減収が反映されていないことに非常にリスクを感じる。すでに平成 24 年度は始まっているが、計画どおりに進んでいるのか。
- △ けやき棟の建築に伴い、使用できない時期があったが、既に黒字に転換している。計画以上の収入を見込んでいる。

〔報告〕

- 1 平成 23 事業年度決算における剰余金の翌事業年度への繰越しに係る承認について
横町財務部長から、報告 1 資料に基づき、平成 23 事業年度決算における剰余金の翌事業年度への繰越しに係る承認について報告があった。
- 2 平成 26 年度教育組織の編制等について
阿江副学長・理事から、報告 2 資料に基づき、平成 26 年度教育組織の編制等について報告があった。
 - 理工学群は筑波独自の試みであり、新しい方向を目指しているのはよく理解しているが、応用理工学、工学システム、社会工学の違いはどう理解したらいいのか。また、工学システムと情報学群があるが、この違いもどうなのか。
 - △ 応用理工学というのは一般の大学の工学部や理工学部に近い。工学システムというのはコンピュータ等で、どちらかという応用寄りでありロボットなども入る。社会工学は工学的な知識、あるいはテクニクを社会に当てはめて、主として統計などを使いながら研究するというものである。情報学群は、図書館情報学群と以前の情報学類が統合し、コンピュータのシステムも加えている。本学の特徴であるが、工学的な分野が様々に分散しており、集めるとそれなりの陣容になるが、それが場合によっては弱みになってしまう。
- 3 平成 25 年度学群及び大学院入学試験実施結果について
阿江副学長・理事から、報告 3 資料に基づき、平成 25 年度学群及び大学院入学試験実施結果について報告があった。
 - 私費外国人留学生の入試志願者が 101 人、入学者数が 16 人で、0.7%となっている。私学などから見ると異常に少ない。筑波を狙う私費の留学生ならかなり学力は高いと思うが、これは何か方針があって少なくしているのか。
 - △ 国費の留学生は優秀であり、合格率は高いが、私費は少しばらつきが大きく、試験は受けるが、合格水準に達しない留学生も多いのが実態である。なお、この数表では 4 月入学者のみであるため入っていないが、留学生は 10 月入学のグローバル 30 学群英語コース入試で相当数入学する予定である。
- 4 平成 24 年度卒業生・修了者の進路状況について
清水副学長・理事から、報告 4 資料に基づき、平成 24 年度卒業生・修了者の進路状況について報告があった。
 - 博士後期課程修了者 396 人のうち、就職希望者 138 人に対する就職率が 89%となっているが、その 138 人以外の方はどのような進路なのか。
 - △ 日本学術振興会や外部資金の研究者、博士特別研究員等となっている。博士特別研究員というのは筑波大学独自のポストドクである。日本学術振興会や、外部資金の研究者と博士特別研究員で 100 人程度である。筑波大学ではこれを就職に入れていない。
- 5 筑波大学学生支援等プロファイル（暫定版）について
清水副学長・理事から、報告 5 資料に基づき、筑波大学学生支援等プロファイル（暫定版）に

ついて報告があった。

6 第 107 回及び第 108 回教育研究評議会報告

学長から、報告 6 資料に基づき、第 107 回及び第 108 回教育研究評議会について報告があった。

- 「入学者選抜方法検討タスクフォース」を設置し、検討することには大変期待している。政府の教育再生実行会議でも大学のグローバル化、小中高大の一貫教育は検討されており、筑波大学にとっては大きなチャンスである。これだけ附属高校が充実している学校は日本のどこにもない。附属高校から成績の優秀な生徒を筑波大学に入学させる方法などもこのタスクフォースで是非とも検討していただきたい
- △ 「入学者選抜方法検討タスクフォース」は年内を目途に最終答申を取りまとめる予定であるが、ある程度まとまった段階で経営協議会にも報告しご意見を頂きたいと考えている。

以 上